

A. 中段突き（以下、受けが短刀を右手で持つ場合）

受けは、刃を下にして順手で短刀を握り、踏み込んで取りの腹部を突く。

1. 外入り身

1) 腰を切って外に浅く入り身し、右手の手甲で受けの腕を外側から受け払い、受けの手首の横に手甲を付ける。

①□入り身投げ（首巻落とし）

受けの手を払いあげながら掴んで、さらに右に転換しつつ短刀を首に巻き付けて投げる。受けをうつ伏せにして左膝で腕を抑え、左手で受けの短刀を取る。

②□腕抱え込み投げ

右手で受けの手首を横から掴み、左手で受けの腕を上から抱え込んでから、右に転換して投げる。受けをうつ伏せにして左膝で腕を抑え、左手で受けの短刀を取る。

③□肘固め（六教の抑え）

左手で受けの手を横から掴むとともに、右手で受けの手を下から引き寄せつつ、受けの腕を抱え込む。左肘で受けの右肘を極め、右手で受けの短刀を取る。

④□小手返し投げ（表、裏）

表：右手で受けの手を払いあげながら左手で掴む。右転換しつつ、右手刀を流して投げる。

裏：左手で受けの手を横から掴み、受けを前に崩してから体を開いて投げる。

短刀の取り方：左手で極めつつ、右手で短刀の背側から折るように短刀を取る。

2) 腰を切って外に浅く入り身し、右手刀で受けの手首を上から軽く打つ、または抑える。

⑤□三教（抑え、投げ）

受けの後ろに回りつつ左手で受けの肘を極める。受けを前方に送り出すとともに右に内転換し、左手で三教に極めて短刀を取って抑える。または前方に投げる。

⑥□隅落としまたは呼吸投げ

受けの右手を右手から左手に受け渡し、左に踏み込んで左隅に落とす。または、右手刀で受けの肘を押し上げてから呼吸投げ。手を持ち替えて、受けをうつ伏せにして左膝で腕を抑え、左手で受けの短刀を取る。

2. 内入り身

受けの内側に入り身し、右手の裏拳または手刀で受けの顔面または側頭に当て身する。斬り返されないよう、左手で受けの手首を横から制する。

⑦□二教抑え（表）

裏拳の引き手で受けの手を上から掴み（必ず親指を重ねる）、前に崩してから上段に振りかぶって二教に抑える。左膝で受けの腕を抑え、左手で受けの短刀を取る。

⑧□四方投げ（表、裏）

受けの腕の下に手刀の引き手を回して、下から受けの手首を掴む。両手で短刀を制しつつ、表または裏の四方投げで投げる。受けの側面に回り込んで短刀を取る。

⑨□隅落としまたは呼吸投げ

右手で下から受けの顎に掌底を入れつつ、左に踏み込んで左隅に落とす。または、右手刀で受けの肘を押し上げてから呼吸投げ。手を持ち替えて、受けをうつ伏せにして左膝で腕を抑え、左手で受けの短刀を取る。

⑩□肘抑え

右肘打ちを入れつつ内に抜けてから、受けの前に回り込んで肘を抑える。右膝で腕を抑え、左手で受けの握り手を押しつぶして短刀を取る。

⑪□肘落とし

受けの腕の下に手刀の引き手を回して、下から受けの手首を掴む。左に転換して左手で受けの肘を落として抑える。左膝で腕を抑え、右手で受けの握り手をつぶして左手で短刀を取る。

B. 上段突き（以下、受けが短刀を右手で持つ場合）

受けは、刃を下にして順手で短刀を握り、踏み込んで取りの喉を突く。

1. 内入り身の下手取り

左手の手刀を前から後に引き上げ、短刀を左側面に引き付ける。受けの内側に入り身し、右手の手刀で受けの側頭に当て身または目切りする。受けの腕の下に手刀の引き手を回して、下から受けの手首を掴む。腰を切り返して短刀を身体の前から右に引き出し、受けを崩す。

⑫□四方投げ（表、裏）

右手で短刀を左手で受けの肘を制しつつ、表または裏の四方投げで投げる。受けの側面に回り込んで短刀を取る。

⑬□肘落とし

左手で受けの肘を落として抑える。左膝で腕を抑え、右手で受けの握り手をつぶして左手で短刀を取る。

C. 正面打ち（以下、受けが短刀を右手で持つ場合）

1. 正面受け

受けは、刃を下にして順手で短刀を握り、上段に振りかぶる。

⑭□五教抑え（裏）

取りは、左手で受けの右肘を、右手で受けの右手首を下からつかむ。受けが短刀を振り下ろす力を利用して裏に回り、五教に抑える。受けの肘を引き上げると同時に手首を押し込み、極めてから、手刀で短刀を払いのける。受けの肘を抑えながら、短刀を取る。

2. 切り落とし

受けは、刃を下にして順手で短刀を握り、上段に振りかぶる。取りは、左手の手刀で受けの右肩を制する。受けが短刀を振り下ろす力を利用して内に入り身し、右手の手刀で側頭に当身を入れる。さらに左手で受けの右手を身体の前に切り落とす。

⑮□四方投げ（表、裏）

取りは、受けの右手を右手で受け取る。両手で短刀を制しつつ、表または裏の四方投げで投げる。受けの側面に回り込んで短刀を取る。

⑯□腕抱え込み投げ

取りは、同時に右手の手甲で受けの腕を外側から受け払い、受けの手首の横に手甲を付ける。右手で受けの手首を横から掴み、左手で受けの腕を上から抱え込んでから、右に転換して投げる。受けをうつ伏せにして左膝で腕を抑え、左手で受けの短刀を取る。

⑰□小手返し投げ（表、裏）

取りは、同時に右手の手甲で受けの腕を外側から受け払い、受けの手首の横に手甲を付ける。

表：右手で受けの手を払いあげながら左手で掴む。右転換しつつ、右手刀を流して投げる。

裏：左手で受けの手を横から掴み、受けを前に崩してから体を開いて投げる。

短刀の取り方：左手で極めて、右手で短刀の背側から折るように短刀を取る。

D. 横面打ち（以下、受けが短刀を右手で持つ場合）

受けは、刃を下にして逆手または順手で短刀を握り、横面を打つため、右後方に大きく振りかぶる。取りは、受けが振りかぶると同時に、右手で受けの右側頭に裏拳を入れつつ、大きく踏み込んで左手で受けの右腕を制する。

⑱□五教抑え（表、裏）

裏拳の返し手で受けの右手首を抑えてから、左手で受けの肘を上げつつ、表に踏み込むまたは裏に回り、五教に抑える。受けの肘を引き上げると同時に手首を押し込み、極めてから、手刀で短刀を払いのける。受けの肘を抑えながら、短刀を取る。

以上